

今別町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 今別町の作物作付の現状、今別町が抱える課題

当町における水田面積は、約283haで一戸あたりの耕作面積は1.64haである。このうち水稲作付面積は約123ha、水稲作付農家一戸当たりの水稲作付面積は約2.69haとなっている。

主要な振興作物は、経営所得安定対策の戦略作物でもある飼料作物（作付面積約95ha）であり、地元畜産農家の需要に応えた、作付面積の維持・拡大が重要になっている。

また、地域振興作物については、地域特性を生かした「ばれいしょ・かぼちゃ・にんにく・トマト・なす・きく」を、米との地域複合農業として発展させていく必要がある。

一方、農家人口は、農業者の高齢化や後継者不足から徐々に減少し、平成12年には346戸あった農家戸数が現在は173戸となっている。

このため、認定農業者など担い手を中心に借地や作業受託の拡大、農地の利用集積を推進するとともに、農業機械の効率的利用によるコスト削減と生産性向上に努めながら、産地交付金を活用した地域振興作物の推進を図り、地域農業の維持・発展に努めていく。

2 作物ごとの取り組み方針

町内の約283ha(不作付地を含む)の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

近年の需要動向やJA等出荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア. 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、農業者が蓄積してきた技術と既存農業機械を有効に活用できる飼料用米の振興を図る。また、飼料用米の生産拡大に当たっては、産地交付金を活用しながら、疎植栽培等のコスト低減取組の導入推進を図り、5年後(平成33年度)には、水稲作付面積の約27%(33ha)程度の導入を目指す。

イ. WCS用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、地元の畜産農家からの需要があるWCS用稲にも注目し、産地交付金を活用しながら直播や疎植栽培等のコスト低減による安定生産を図る。

(3) 飼料作物

地元の畜産農家との連携を図り、契約を継続して結び現行の栽培面積を維持する。

(4) 野菜・花き

「ばれいしょ・かぼちゃ」は、気象・土地条件等から、町内での生産に適した重要な振興作物であり、「にんにく、トマト、なす、きく」と合わせ、担い手による高品質化と安定生産を推進し、県外市場への売り込みやPRにより産地ブランド化と作付面積拡

大を目指す。

(5) 不作付地の解消

近年、農家の高齢化および離農により耕作放棄地が増加している。

地理的条件および地質的條件が原因とみられる、未耕作地に関しては、農地中間管理事業の活用、土地改良事業等の実施および担い手等への農地の集積と併せて不作付の解消を目指す。

平成28年度の不作付地41.06haについては、平成29年度から5年間で1割程度を飼料用米・WCSの作付により解消を図る。(平成28年41.06ha→平成33年36.95ha)

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 平成28年度の作付面積 (ha) | 平成29年度の作付予定面積 (ha) | 平成33年度の目標作付面積 (ha) |
|-----------|------------------|--------------------|--------------------|
| 主食用米 | 85.9 | 98.3 | 88.2 |
| 飼料用米 | 34.9 | 20.62 | 33.0 |
| WCS用稲 | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| 飼料作物 | 101.7 | 102.2 | 100.2 |
| その他地域振興作物 | 6.84 | 7.94 | 9.94 |
| ばれいしょ | 1.6 | 1.7 | 2.5 |
| かぼちゃ | 2.1 | 2.6 | 2.8 |
| にんにく | 0.2 | 0.2 | 0.3 |
| トマト | 0.7 | 0.7 | 1.7 |
| なす | 0.3 | 0.3 | 0.3 |
| きく | 0.04 | 0.04 | 0.04 |
| その他野菜 | 1.9 | 2.4 | 2.3 |

4 平成29年度に向けた取組及び目標

(単位：ha)

| 取組番号 | 対象作物 | 取組 | 分類※ | 指標 | 平成28年度(現状値) | 平成29年度(目標値) | 平成33年度以降(目標値) |
|------|-----------------|--------------------|-----|------|-------------|-------------|---------------|
| 1 | 飼料用米 | 生産性向上の取組 | イ | 取組面積 | 34.9 | 20.62 | 33.0 |
| 2 | ばれいしょ・かぼちゃ・にんにく | 地域特産品で付加価値の高い作物の取組 | ア | 取組面積 | 3.9 | 4.5 | 5.6 |

※29年度飼料用米作付予定面積が28年度より減少したのは、まっしぐらでの飼料用米作付が区管理になったためと、他地区の乾燥施設が利用出来なくなったことが要因。

なお、32年度からは二股地区のほ場整備が一部作付可能となることから面積は増加予定。

※「分類」欄については、実施要綱別紙15の2(6)のA、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、A、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか1つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組